

ISOを知る、伝える、広げる、会報誌

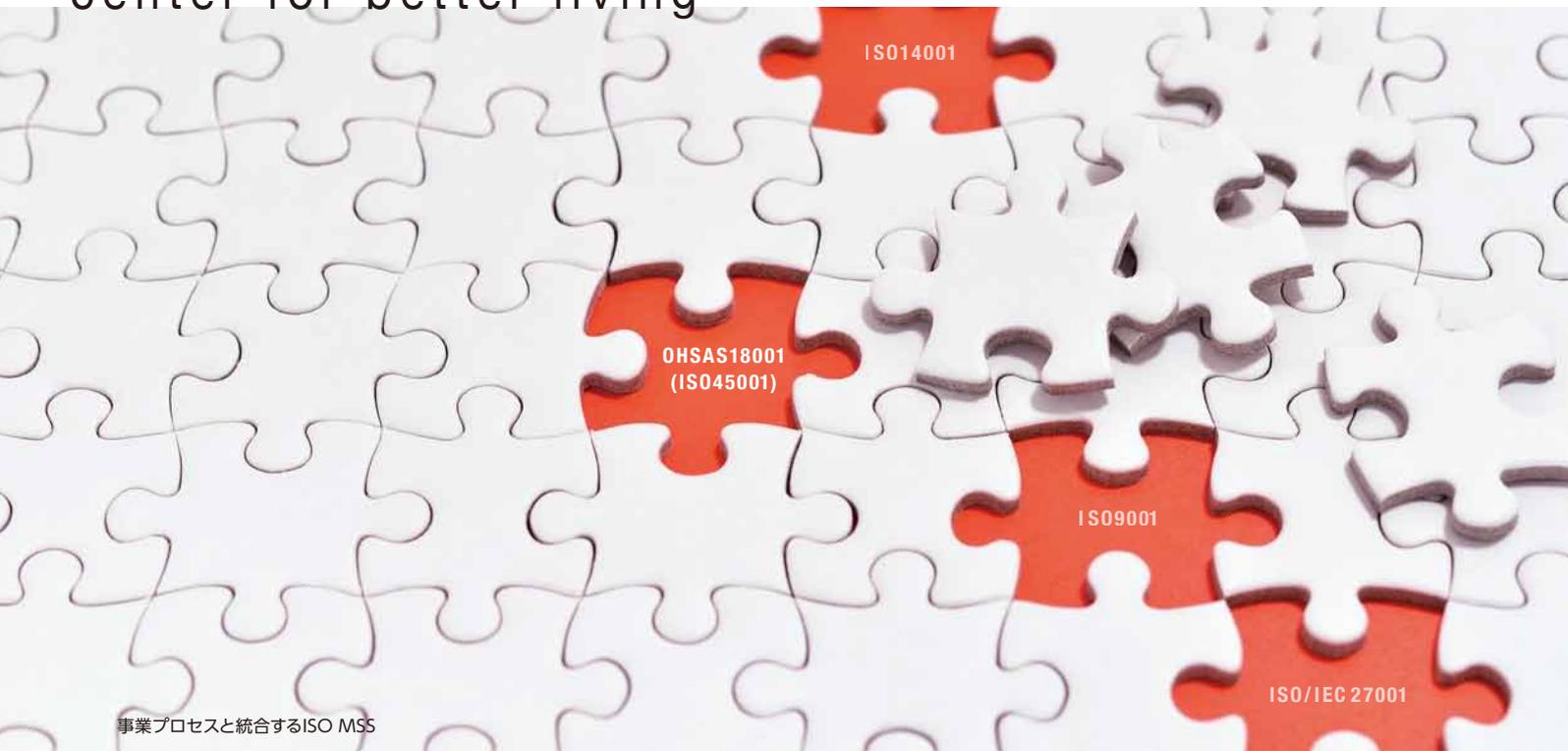
Vol.107

# ISONET

BL-QE



center for better living



事業プロセスと統合するISO MSS

## ISO45001特集

### 日本代表エキスパートに聞く 労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001開発の最新状況。

- ・ISO/PC283 (ISO45001開発委員会) 日本代表エキスパート  
株式会社テクノファ取締役会長  
平林 良人 氏

## BL-QE Information

一般財団法人 ベターリビング  
システム審査登録センターは、  
品質・環境ともJAB認定の2015年版への  
移行が承認されました。

## 北から南から

BL-QE新規登録組織  
2015年12月度～2016年5月度  
登録組織からのお喜びと抱負の言葉を紹介

## Seminar Information

- ・新規格に基づく内部監査実施のための  
内部監査員セミナー
- ・QMS、EMSの2015年版への移行について  
「有料ギャップ分析サービス」開始!

一般財団法人

ベターリビング システム審査登録センター(BL-QE)

## BL-QE Information

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センターは、  
品質・環境ともJAB認定の2015年版への移行が承認されました。

品質マネジメントシステムJIS Q 9001については5月20日に承認され、ベターリビングとして第一号のJABシンボルマーク入り登録証を京都エレベータ様(京都府)に発行いたしました。環境マネジメントシステムJIS Q 14001については、7月15日にJAB認定の移行が承認され、株式会社嶋屋様(東京都)にJABシンボルマーク入り登録証を発行いたしました。

すでに、ご登録組織の2015年版への移行審査を実施しています。2015年版ISOマネジメントシステムへの移行審査について、ご質問、ご相談がございましたら、お気軽にご連絡ください。<お問い合わせ先:審査管理部 03-5211-0765 山岸、堀>

# 北から南から

BL-QE  
新規登録  
組織

### 2015年 12月度 ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1552	新川工業 株式会社	福岡県	物流機器・産業機器の設計・製造
登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1553	株式会社 タケコン	愛知県	土木工事の施工
登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1554	株式会社 東邦工務店	愛知県	上下水道工事の施工

### ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS088	SOTシステムコミュニティ 株式会社 本社	東京都	コンピュータソフトウェアの開発・保守・教育およびそれに関する管理業務

### 2016年 1月度 ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS089	株式会社 セプト	東京都	顧客要求に基づく社内におけるソフトウェアの設計・開発
登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS090	株式会社 エヌ・テック・システムズ	沖縄県	1.パッケージソフトの販売・カスタマイズ開発・保守 2.ビジネスシステムの設計・開発・保守 3.システム機器の販売・保守 4.IT技術者の派遣

### 2016年 2月度 ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1555	株式会社 サクラダ	愛知県	土木工事の施工
登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1556	株式会社 ナカガワ	愛知県	土木工事の施工

### ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS091	新港リサイクル 株式会社 機密文書処理施設・事務営業管理部門・物流部門	宮城県	機密文書の破砕処理、機密文書の収集・運搬、営業および事務管理

### 2016年 3月度 ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1557	京都エレベータ 株式会社 (福知山サービスセンター除く)及び関連会社 (株式会社 ケイ・イー、有限会社 中部メンテナンス)	京都府	・エレベータ、エスカレータ、小荷物専用昇降機の保守点検、修理、販売、 検査、設計、製造、施工及びこれに付随する一切の業務 ・立体駐車装置の修理、販売 ・建築設備等の保守点検
登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1558	ツボイビルテックス 株式会社	大阪府	建築物の設計・施工
登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1559	株式会社 中原工業	埼玉県	建設工事及び付帯工事

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1560	株式会社 エンボリック及び 環境クラウドサービス 株式会社 行田営業所	埼玉県	環境計測システムの設計、開発、製造、販売、据付け及び修理 (医療機器を除く)

### ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS092	株式会社 ユー・エス・エル	東京都	情報システムの設計・開発・運用保守業務

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS093	株式会社 シックスセンス	東京都	証券システムコンサルタント及びシステム開発

2016年  
5  
月  
度

### ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1561	株式会社 久保村製作所	京都府	各種精密機器、装置などの部品加工及びユニット組立の管理及びこれらに係わる営業活動

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1562	コベルコシンワ 株式会社 家具事業部	兵庫県	造作木製家具及び木工品の設計・開発、製造及び据付

### ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E434	株式会社 久保村製作所	京都府	各種精密機器、装置などの部品加工及びユニット組立の管理及びこれらに係わる営業活動

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E435	株式会社 日本アシスト	神奈川県	業務請負及び人材派遣業(ソフト・ハードウェア設計、各種製造・修理又は一般事務)

### ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS094	東亜建設技術 株式会社 地理情報チーム	福岡県	GIS(地図情報システム)の技術を活用した、情報システムに係わる企画提案、 システム設計、システム構築及びデータベース構築のサービス提供

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS095	株式会社 イーリバースドットコム	東京都	・電子マニフェスト登録支援システムと産業廃棄物処理に関する 電子委託契約のASP事業および建設環境関連物品の販売支援 ・顧客要求に基づく情報システムの開発、保守、運用

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS096	株式会社 日本アシスト	神奈川県	技術管理業務及びソフトウェア開発・ソフトウェア開発技術者育成業務に 関する情報の保護

## ISO9001・ISO14001・ISO/IEC 27001・OHSAS18001 認証登録

**お喜びと抱負の言葉** 2015年2月、3月に、ISO9001・ISO/IEC27001の認証登録を  
された組織の方からのお喜びと抱負の言葉をご紹介します。



### Q1557 京都エレベータ 株式会社

### ISO9001:2015と経営指針書で、品質を向上させていく



代表取締役  
田中 陽一 様

経営指針書とは経営理念のもと、経営方針を作成し、経営計画を立て、全社員が目標を設定して、なりたい姿を描きながら仕事を進めていく際に必要となる羅針盤のようなものです。  
その中に、ISO9001認証取得を掲げ3か年で取得しようと目標を設定しました。リー

ダーを決め、内部監査員も各部署に設け自分たちで意見を出し、是正していくことが、品質を維持し発展させることだと全社で取り組めるようになりました。認証取得して、これから自社の発展の為に、経営指針書とISO9001の両輪で自社の経営活動を進めていきます。

### IS091 新港リサイクル 株式会社

### 継続的にお客様のニーズに応え、より厚い信頼を



代表取締役  
酒井 宏純 様  
(前列右から2人目)

当社は、仙台市に拠点を置き、JFE環境グループの一員として、東北を中心に環境リサイクル事業を行っており、機密文書リサイクル事業における、お客様への信頼性強化と、資源循環への貢献を目標に、ISMSの構築を進め、11ヶ月で認証取得しました。

情報セキュリティの重要性和意識向上のため、全社員に加え協力会社にもISMS教育を実施し、一層の組織体制の強化を図っております。今後、お客様のニーズに更に応え、他社との差別化、業務改善に努め、継続的な向上に取り組んでいきます。

# 日本代表エキスパートに聞く

労働安全衛生マネジメントシステム

## ISO45001開発の最新状況。

ISO45001の発行まで1年前後(予定)となりました。今回の特集は、労働安全衛生マネジメントシステム規格の開発委員会に、日本代表エキスパートとしてその策定に参加している株式会社テクノファの平林良人会長から、ISO45001の内容や今後のスケジュールなど、最新の状況についてお話を伺いました。

はじめに、労働安全衛生分野のISOが、開発をスタートするまでの経緯をお聞かせください。

ISO(国際標準化機構)がマネジメントシステム規格を開発し発行したのは、「品質」分野のISO9001が最初です。ISO9001は1987年の発行以後、またたく間に世界中へ広がりました。そこでISOは、次のマネジメントシステムを何にするか考えた結果、「安全」と「環境」の2つを対象とすることに決めました。しかし、1992年にリオデジャネイロで環境サミットが開かれるなど、地球環境を守ることを優先していた当時の風潮から、まずはISO14001を発行させることにしたのです。

組織の中の安全、つまり労働災害に関するマネジメントシステムを作ろうという動きは継続してありました。その先駆が、1996年にイギリスBSI(英国規格協会)が発行した労働安全衛生マネジメントシステム国内規格BS8800を展開していく動きです。これに対してILO(国際労働機関)は、ISOなどのように民間で、しかも自分たちで採用するしないを決めるようなスタイルの規格を好ましく思いませんでした。

ILOは、労働安全衛生は労働者・経営者・政府の三者構成の中で守られるべきものだと戦後一貫して主張している機関です。ILOの条約155号などのように、就業に起因、または就業中に生じる事故や健康障害の防止を目的とし、生命や健康に切迫した重大な危険のある場合、使用者が是正措置をとるまで、労働者はこのような危険な職場に戻ることを求められない、こうした緊急避難などを含めて各国政府が条約として結ぶものもあります。日本も含めて労働安全規則やその法律などは、ILOの基準に沿うことになるのです。

このようにISOとILOの見解の相違から「安全」分野におけるマネジメントシステムの発行は遅れましたが、その間にもISOは新しい規格を次々に発行し、現在では10種類を超えるマネジメントシステムを世の中に出しています。そして2013年、ISOとILOのトップ会談により、労働安全衛生の内容に絞ったISO規格を協力して開発し発行することで合意しました。合意の理由のひとつは、認証件数が世界で10



### 平林 良人氏 プロフィール

株式会社テクノファ(マネジメントシステム審査員研修機関)取締役会長。前東京大学共同研究員。ISO/TMB/TAG対応国内委員。ISO/PC283(労働安全衛生マネジメントシステム開発委員会)日本代表エキスパート。ISO/PC241(道路交通安全マネジメントシステム)国内委員会委員長代理。前一般社団法人日本品質管理学会 理事。審査員研修機関協議会 代表幹事。一般社団法人環境プランニング学会 副会長。一般財団法人ベターリビング評議員

万件近くにふくれあがったOHSAS18001を、ILOサイドが無視できなくなったからではないかと思えます。

### OHSAS18001とISO45001の要求事項は、どのような点が異なりますか？

ISOは、会社全体で守らなければならない日常の事業活動の中の基本的要件を定めています。一方、イギリスのBS8800に基づいたOHSAS18001は、事故を起こさないことに焦点を絞った規格です。ISO45001ではILOが出しているILS(国際労働基準)という規格を考慮することが必要となるので、ILOの主張をいかに調整していくのが注目される点です。

## ■ISO/DIS 45001:2016の構造

序文／1.適用範囲／2.引用規格／3.用語及び定義	
4.組織の状況	4.1 組織及びその状況の理解 4.2 労働者及びその他の利害関係者のニーズ及び期待の理解 4.3 OH&Sマネジメントシステムの適用範囲の決定 4.4 OH&Sマネジメントシステムとそのプロセス
5.リーダーシップ、労働者の参加及び協議	5.1 リーダーシップ及びコミットメント 5.2 OH&S方針 5.3 組織の役割、責任、説明責任及び権限 5.4 参加及び協議
6.計画	6.1 リスク及び機会への取組み 6.2 OH&S目標及びそれを達成するための計画策定
7.支援	7.1 資源 7.2 力量 7.3 認識 7.4 情報及びコミュニケーション 7.5 文書化した情報
8.運用	8.1 運用の計画及び管理 8.2 変更の管理 8.3 外部委託 8.4 調達 8.5 請負業者 8.6 緊急事態への備え及び対応
9.パフォーマンス評価	9.1 監視、測定、分析及び評価 9.2 内部監査 9.3 マネジメントレビュー
10.改善	10.1 不安全事故、不適合及び是正処置 10.2 継続的改善

## ■ISO/DIS 45001:2016の主なポイント

- ISO9001:2015やISO14001:2015と同様、共通テキスト「附属書SL」に基づいて作られている
- リスクアセスメント:OHSAS18001やILOのガイドにも盛り込まれている、転落死や機械に巻き込まれる事故などのような労働現場における「リスク」を低減すること
- トップのコミットメント:最高責任者がこのマネジメントシステムを使って事故をなくすことへのリーダーシップを発揮すること
- 労働安全衛生をきちんと推進するためにはどのようなプロセスが必要かを明確にすること
- 結果として災害が少なくなると意味がないので、結果を評価するパフォーマンス評価を重視する

### ISO45001は組織にどのようなメリットをもたらしますか？

メリットは主に2つ考えられます。1つは、ISO9001やISO14001との共通性が高いので、社内で構築するのに

理解しやすいことです。もう1つは、規格の中身が強化されているので、きちっと行えば組織と労働者に安全がもたらされることです。

ISO45001はまだ開発中ですが(P6にあるようにDIS2作成に焦点は移った)、OHSAS18001からの移行期間についてはIAF(国際認定フォーラム)が案を出します。IAFは今回の規格ではトランジション(移行)ではなく、OHSAS18001とISO45001という違いがあるため、ミグレーション(移住)ということばを使って開発しています。その案を見ると3年間でミグレーションすることになっていて、認定された機関がミグレーションの審査をすることができるとしているので、移行期間はISO9001などのケースと同様と考えてよいでしょう。

ちなみに、ISO45001が発行された後は、OHSAS18001を取得している企業ではISO45001に移住(移行)していただくことになります。OHSAS18001は、必ずしも世界中の認証機関で認定されているわけではありませぬので、審査員もISO9001やISO14001のような審査員資格はありません。認証するためには第三者性が必須で、それが社会的な信頼を保つ大きな要素になります。OHSAS18001にはその辺りのことがないので、ISO45001への移住(移行)にあたって、IAFは信頼性を高めるような案を盛り込むものと思われます。

## ■移住(移行)に際して組織が注意すべき点

- 規格の意図、しなければならない内容の理解を深める
- そのことを前提として、さまざまな要素をつなげていく
- 要素として重要なのは人  
トップから管理者、末端の従業員まで、全員でこのISO45001の認識を共有化する
- 機械もつながっていないと事故が起きる、冷凍室の機械が壊れると中毒につながる等、組織の活動の中でいろいろな要素をつなげておかなければならない

ISO9001やISO14001と同じようにトップの理解に関しても重視されているので、組織は気をつけなければなりません。

### ISO9001、ISO14001と同様、「プロセスアプローチ」はISO/DIS 45001でも重要ですか？

附属書SLに規定されているISOマネジメントシステム規格(MSS)の上位構造、共通テキスト及び共通用語・定義は、当然ながらISO45001でも採用されています。現在、各組織の方はISO9001やISO14001の移行作業を進めていると思いますが、ISO45001も同様に、「プロセスアプローチ」が中心になります。

例えば、ISO9001の箇条4.4.1にはISO9001をきちんと

やるために必要なプロセスを明確にしなければならない、とあります。インプットとアウトプット、順序や相互関係、プロセスに必要な判断基準や方法、必要な資源と権限者等、決めなければならないプロセスは多数あります。

日常業務のプロセスと要求事項がいっしょにならなければいけないことも要求事項の大きなポイントです。

事業とマネジメントシステム各々のプロセスをどのように結びつけ、どこにどのように落とし込むのか。例えば設計業務では、設計プロセスの日常のインプットの中に規格の要求事項のインプットを入れ込むとギャップが見えてきますが、このギャップをなくすことが規格へ適合するという考え方です。

このようなプロセスに対するアプローチが容易にできるように、テクノファでは、『ISO9001:2015対応ソフトウェア プロセスアプローチ支援ツール』を開発しました。このソフトウェアでは、規格が要求しているプロセスアプローチの最低限の仕組みづくりをナビゲーションし、構築できます。このソフトウェアでは代表的なプロセスを15個ほどあげて、インプットとアウトプットのモデル事例を組み込んで対応します。

要求事項と自分たちの事業のプロセスとを紐付けしてユーザーに示しながら展開していくような機能もこのソフトウェアには組み込まれています。

ソフトのパッケージには、要求事項をプロセスに統合することをうたっていて、事業プロセスに規格のプロセスを統合するとはいいません。設計プロセスの中に設計に関する要求事項が入ってくるという概念としてみてください。

規格ではどこに入れ込みとは書いてなく、事業プロセスに要求事項を入れ込んで統合しなさいとだけ書いてあります。どこに統合するかは、組織の方が現状に照らし合わせて決めることで、ソフトではそのための推奨方法を参考事例として示しています。

テクノファが開発したこの支援ツールは、QMS (ISO9001) 版ですが、今後EMS (ISO14001) 版も登場させる予定です。



## 既存のマニュアルを活用して 改訂するのは可能なのですか？

OHSAS18001からISO45001へ移住(移行)する際、規格の違いに合わせてマニュアルを改訂する組織は少なくないと思います。プロセスアプローチ同様こちらも重要な作業ですが、マニュアルの改訂でのコンサルティングは、専門家が組織を訪問して行うことから、組織の方からすれば、コスト面で厳しいところもあります。そこで、コストを抑え、コンサルティングを提供するという発想で、品質マネジメントシステムと環境マネジメントシステムのために『2015年版

ISO9001/ISO14001 マニュアル移行サポートサービス』というソフトがテクノファで開発されています。

改正されたこの2つの規格同様、ISO45001も附属書SLに基づいた章立てに変更されますので、改訂するマニュアルも変化することになるでしょう。新旧2つの規格の要求事項のギャップを分析して、足りないところを書き足すという考えがこのサービスの根幹をなします。

『2015年版 ISO9001/ISO14001 マニュアル移行サポートサービス』のソフトでは、訪問の代わりに、組織の方からMicrosoft Wordで作られたマニュアルのデータを送っていただき、内容を並び替えて解説文を入れ返却するのがサービスの基本となります。解説文はPDFファイルで作られた解説書の該当ページへリンクしています。組織の方が解説に沿って改訂を進めていけば9割程度までできあがることを念頭に作っているので、後は手順書や下位規定などを参照して完成させていただきだけです。なお、サービスの対象は、上位のマニュアルの部分だけです。

専門家が最初から最後まで作業していくところを、技術革新によって専門家でなくてもできる作業は切り分けています。もちろん、最後の工程では専門家の目を入れ、直すべきところを見つけたら完全なものになるよう調整しています。

なお、ご要望にお応えして、Microsoft Excelデータのサービスも開始している他、ISO45001でも同様の対応サービスを提供する計画です。



## ISO45001の開発状況をお聞かせください。

現在は、国際規格案(DIS)の投票が終わったところです。DISが承認されるためには、メンバー国の2/3以上の賛成と1/4以下の反対でなければならないというルールがあります。今回公表された結果では、2/3以上の賛成は得られましたが反対が1/4以上あったため、承認されませんでした。2カ国の反対がなければ今回可決されていたのです。

反対しているのは先進国が多かったのですが、日本は賛成しています。国内委員会の中では反対意見もありましたが、最終的に日本としては委員長決裁で賛成になったので、意見の相違はなく、日本代表エキスパートの3者はまったく同じ考えで参加しています。

## ■反対したメンバー国の主な意見

- 労働者の範囲をどうするか。DISでは労働者は「働くものすべて」と定義している。トップ、マネージャー、一般の従業員、外部からの請負者、派遣、パート、アルバイト、場合によっては学生のインターンシップまで、それでは広すぎるのではないか
- 労働者が自分たちの現場で事故になりそうな事態に遭遇したとき、後からペナルティを課せられることなくその場から避難することができるという注記がある。講じるべき手段や報告義務などがある中で、避難する権利は当然あるが、その書き方について意見はさまざまである
- ISO規格では序文で、世の中にある法律やルールを守ることは当然であるという前提で、要求事項の中でいちいち法的要求事項を遵守することを示していない。各所に法律を守るべきことを書くべきではないか
- 「リスクと機会」という要求事項がわかりにくい
- 管理策の順位付けやハザードの特定、教育訓練、労働者の参加と協議といった内容が、自国で持っているものに合わない

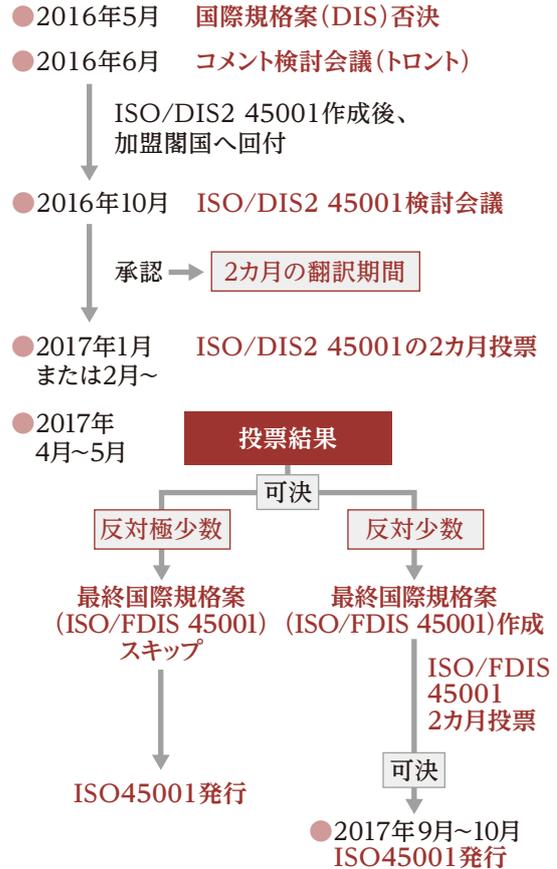
## 否決により開発スケジュールはどのような展開になりますか？



DISが承認されなかったため、今年の秋に発行されると思われていたISO45001規格は、当初の予定より半年から1年近く後ろへずれることとなります。今後のスケジュールは、10月に改めて総会が開かれ、その1カ月くらい前までにDIS2が加盟各国へ送られ回覧されます。今回、各国から寄せられたコメントの検討は6月6日～10日のトロント会議で行いましたので、それを盛り込んだDIS2を各国に示し、その後投票が行えるかどうかを10月の総会で決定します。

ここでDIS2が承認されれば2カ月の各国での翻訳期間を設けて、来年の1月または2月からDIS2の2カ月投票を行います。投票結果が出るのは4月か5月。賛成国が多ければ最

## ■ISO45001の今後の開発スケジュール(予定)



終国際規格案(FDIS)を跳び越して、国際規格(IS)へ。まだ反対があればFDIS作成へと進み、FDISの2カ月投票を経て来年の9月か10月に国際規格(IS)として発行される予定となります。最終的な発行は、DIS2の内容によって来年の半ば以降になると考えてください。

ISO45001が発行された後に翻訳され、JISが発行されます。JISの国内検討委員会はすでに組織化されていて、今回は厚生労働大臣が主務大臣となります。JISの場合、多くは経済産業大臣が主務大臣ですが、労働安全衛生の規格ということから今回の主務官庁は厚生労働省となりました。国内のJIS策定委員会は中央労働災害防止協会が事務局となって開かれますが、DISの承認が伸びたことから委員会は一時中断し、DIS2を待ってから再開するのではないかと思います。これまで、国際規格(IS)が発行されると概ね2カ月ほどで翻訳され、JISとして日本語版が発行されていますので、JISとしての45001の発行は来年の夏から秋、あるいは来年の年末くらいになるのではないかと見られています。

### ISO NET編集部より

ISO NET編集部では、これからも規格の開発状況について、最新情報をお伝えしてまいります。なお、この記事の詳細は、一般財団法人ベターリビング システム審査登録センターホームページ内の登録組織様専用ページに掲載されています。

新規格に基づく内部監査実施のための

# 内部監査員セミナー

品質、環境マネジメントシステムともに、今回の規格改正による2015年版への移行審査を受けるためには、新規格に基づく内部監査の実施が必須となっています。ペターリビング システム審査登録センターでは、新規格に対応できる内部監査員セミナーとして、2つのコースをご用意しています。

## 内部監査員レベルアップセミナー(1日コース)

各回(定員20名)(最少催行人員10名)

既存の内部監査員が、2015年版の内部監査員としてご活躍いただけるよう、規格改正による規格の差分だけでなく、規格の意図を理解し、全体的な構造を把握していただくことを中心に解説いたします。今後の事務局担当者や管理層の方が新規格への対応を検討される上でも、参考になる内容をご用意しています。

JIS Q 9001 品質マネジメントシステム		
開催地	東京	大阪
開催日	9月 8日(木) 10月14日(金) 12月 8日(木) 1月28日(土)	9月 6日(火) 11月10日(木)
時間	9:30 ~ 17:00	
会場	一般財団法人ペターリビング7階会議室	大阪ドーンセンター 会議室
受講料	登録組織 16,000円(税別) ※テキスト、昼食、修了証発行料を含みます	

JIS Q 14001 環境マネジメントシステム		
開催地	東京	大阪
開催日	11月22日(火)	11月11日(金)
時間	9:30 ~ 17:00	
会場	一般財団法人ペターリビング7階会議室	大阪ドーンセンター 会議室
受講料	登録組織 16,000円(税別) ※テキスト、昼食、修了証発行料を含みます	

## 内部監査員養成セミナー(2日コース)

各回(定員20名)(最少催行人員10名)

ISOマネジメントシステムに馴染みのない方でも、2015年版の内部監査員としてご活躍いただけることを目指してプログラムを作成しています。2015年版規格について理解し、内部監査の実施方法を学ぶだけでなく、開始会議の開催から、現場監査、チームミーティング、終了会議の開催といったシミュレーション演習によって、すぐにご活躍いただけるような内部監査員の養成を目指しています。

JIS Q 9001 品質マネジメントシステム		
開催地	東京	大阪
開催日	9月13日(火)~14日(水) 11月16日(水)~17日(木) 2月 1日(水)~ 2日(木)	11月8日(火)~9日(水)
時間	9:30 ~ 17:00	
会場	一般財団法人ペターリビング7階会議室	大阪ドーンセンター 会議室
受講料	登録組織 30,000円(税別) ※テキスト、昼食、修了証発行料を含みます	

### ◎BL-QE 内部監査員セミナー 講師派遣サービス

一般財団法人 ペターリビング システム審査登録センターで開発した内部監査員の養成、レベルアップセミナーの講師をご要望に合わせて派遣いたします。参加人数が多い場合は、経済的な方法で内部監査員の研修を実施することも可能です。詳しくは、お問い合わせください。

内部監査員セミナーに関するお問い合わせは、03-5211-0765 担当：山賀まで

QMS、EMSの2015年版への移行について

# 「有料ギャップ分析サービス」開始!

旧規格におけるマネジメントシステムの運用から品質マネジメントシステム、環境マネジメントシステムの2015年版による運用へ移行する際、新しい要求事項を満たすために対応が必要な組織様のギャップを審査員の「ギャップ分析」により明確にいたします。(「有料ギャップ分析サービス」は、審査やコンサルティングではありません。)

■時間: 3時間程度 / 1マネジメントシステム

有料ギャップ分析サービスに関するお問い合わせは、03-5211-0765 担当：審査管理部 山岸、堀まで

<詳細は、BL-QE ホームページ「登録組織専用」ページ → 「規格改正関連情報」をご確認ください>

本誌は、弊センター登録組織から受領した「品質/環境/情報セキュリティ/労働安全衛生マネジメントシステム審査登録申請書」に記載されている「申請者」宛に、発行の都度送付しております。送付業務は、効率的に一日も早くお届けできるように、弊センターから「宛名ラベル」を提供し発送を委託しております。弊センターは、発送委託業者との間における請書において、再委託業務も含めた機密保持義務を課す項目を定め管理を徹底するように努めております。今後ともこのような対応をいたします。

ISO NET (Center for Better Living) Vol.107 2016年7月25日発行  
発行 一般財団法人 ペターリビング システム審査登録センター  
代表者: センター長 東ヶ崎 清彦  
担 当: 業務推進部 普及課  
TEL: 03-5211-0603 FAX: 03-5211-0594  
ホームページ: <http://www.cbl.or.jp/>